

JSPS Information

- ◇日本惑星科学会第4回総会議事録
- ◇日本惑星科学会第14回運営委員会議事録
- ◇電子メールニュースレターへの投稿について
- ◇日本惑星科学会入会案内
- ◇学会誌購読申込み

◇日本惑星科学会第4回総会議事録

開催日時：1995年3月29日（水）

開催場所：日本大学文理学部

出席者数：89名（うち委任状57名）

1. 開会宣言

総会成立（会則による成立条件は正会員46名以上の出席）を確認の後、議長に高木靖彦会員を選んだ。

2. 議事

2.1. 第2期下期活動基調報告（中沢会長）

1995年3月現在、正会員数455名（うち学生会員129名）、賛助会員数12団体で昨年3月時に比べて正会員51名（うち学生22名）の増加となっており、本会が着実に発展していることを示している。しかし他方、今後本学会にとって重要な役割を果たしていただくとおられた山越和雄会員が急逝された。慎んでの御冥福をお祈りしたい。

ようやく秋季大会も定着し、講演会については今後一層の充実をはかっていきたい。また、設立当初からの懸案であった財政基盤の改善のため、事務局専従のアルバイトを廃止し、事務局の軽量化を行った。さらに、会議等にかかるコストを軽減し、今年度は黒字60万円を計上して基盤は安

定化の方向に向かっている。ただ無駄部分をカットしたわけではなく、各専門委員等へのボランティアな活動で支えられていることで経費節減がはかられている点に注意する必要がある。また、財政基盤だけでなく学会の運営体制もほぼ確立したと考えている。

2.2. 各専門委員会報告

総務専門委員会（藤原委員長）

昨秋の総会において会則改訂を行った。それに伴い役員選挙の時期が変わったことに注意してほしい。会員名簿をはじめ作成したが、不備な点も多いのでまた早い時期に改善する必要があると考えている。

編集専門委員会（村江委員長）

会誌の頁増が財政を圧迫している。会誌編集、送付等のコストを削減して内容の充実をはかりたい。

2.3. 会計報告（中沢、杉浦財務委員長）

会費収入は全体としては当初予算案の通りとなっている。事務局収入にはバックナンバーの売り上げなどが含まれている。会誌印刷は印刷費単

価削減のため、頁増にもかかわらず経費は少なくなっている。学会センター事務委託費は予算より多いが、事務局の経費軽量化によって発送などの費用が増大したためと、役員選挙にかかる費用が加わったためである。次年度にはこれほどの費用はかからないはずである。諸費用を支払ったあと、75万円ほどの残金が出た。前日行われた運営委員会でこのうち60万円を借入金返済に充当するとの方針が出され、返済積立として60万円計上することとなった。

第2期下期会計年度（1994年1月1日～1994年12月31日）における収支決算は下記の通りである。

[収入の部]

	1994 予算	1994 決算
一般会費	1,700,000	1,972,800
学生会費	400,000	436,000
賛助会費	1,400,000	1,050,000
事務局収入	0	163,088
その他	245,000	469,573
繰越	155,642	155,642
	3,900,642	4,247,103

[支出の部]

	1994 予算	1994 決算
会誌編集印刷	1,400,000	1,180,381
学会センター	950,000	1,724,241
(うち郵送費)	(450,000)	(641,130)
春・秋学会費	120,000	77,612
旅費	0	0
事務局経費	1,280,000	516,051
その他(借入金返済積立)	0	600,000
繰越	150,642	148,818
計	3,900,64	4,247,103

2.4. 会計監査報告

総会に先立ち、中野、松田両会計監事より出されていた会計監査報告が中澤会長より紹介された。

日本惑星科学会会長殿 平成7年3月20日

1994年度会計監査報告

会計からの収支決算を監査した結果、収支決算に誤りのないことを確認しました。また、財政が健全な方向に向かっていることは喜ばしいことと判断いたします。

日本惑星科学会監事

中野武宣

松田准一

以上の諸報告に対し挙手による採決を行い、賛成85(55)、反対0、保留4(2)(括弧内は委任状によるもの)で承認された。

2.5. 第3期上期活動方針(中沢会長)

これまではルーチン的な学会運営の立ち上げに徹してきた。その点については軌道に乗ってきたこともあり、今期は可能な限りこれまでの運営に慣れた人に引き継いでもらい、委員会本来の幅広い活動に専念してもらいたいと考えている。このような観点から、全会員による選挙及び会長による委嘱で下記の方々へ今期の役員、委員をお願いしたい旨、昨日の運営委員会です承願った。

第3期役員名簿

会長

中澤 清 (東工大・理)

副会長

武田 弘 (学術会議担当)

水谷 仁 (宇宙研)

監事

中野武宣 (天文台)

松田准一 (阪大・理)

運営委員・財務専門委員長

杉浦直治 (東大・理)

運営委員・総務専門委員長

藤原 顕 (宇宙研)

運営委員・編集専門委員長

村江達士 (九大・理)

運営委員・将来計画専門委員長

山本哲生 (北大・理)

運営委員・対外協力専門委員長

松井孝典 (東大・理)

運営委員

荒川政彦 (北大・低温研)

大谷栄治 (東北大・理)

加藤 学 (名古屋大・理)

川口淳一郎 (宇宙研)

高木靖彦 (東邦学園短大)

土山 明 (阪大・理)

寺沢敏夫 (東大・理)

林 正彦 (天文台)

福岡孝昭 (学習院大・理)

藤井直之 (名古屋大・理)

向井 正 (神戸大・理)

矢内桂三 (岩手大・工)

渡部潤一 (天文台)

運営委員・企画部会長

佐々木晶 (東大・理)

運営委員・学会連合等部会長

阿部 豊 (東大・理)

財政基盤をさらに充実させるために、対策を講ずる必要がある。たとえば、収入増のための一つの方策として会誌購読者数を増やすことも一案である。そのためには地方自治体の博物館などに積

極的な売り込みを行うことも考えている。また長期滞納者には運営委員から納入の督促をし、どうしても駄目な場合は除名することにした。そして第3期中には借入金を清算したいと考えている。

講演会の継続と充実をはかることも重要である。また秋の学会において現地での一般市民に対する講演会を開く案が出されているので運営委員会で検討していきたい。

惑星科学の研究基盤の充実、例えば、全国大学の大学院重点化、重点的研究拠点 (COE ; センターオブエクセレンス) の構築、また科学研究費細目の恒常化などに向けて引き続き努力していきたい。

惑星探査に関して、LUNAR-A, PLANET-B は計画の最終段階にさしかかっている。次の世代の惑星探査計画の検討を進めて行かなければならない。H II ロケットの惑星探査への利用に関しては、ISAS, NASDA といった個別機関を超えて惑星科学コミュニティー全体として組織化が必要である。なぜそこへ行くか、何を調べるかに行ったことも含めて、探査についての長期戦略 (10-15年) の検討を行う必要がある。これらに関して将来計画および対外協力専門委員会へ検討を委託したい。

上記諸点を勧案し、第3期上期の予算原案を下記の通り提案したい。

[予算案]

収入の部

	1994 決算	1995 予算案
一般会費	1,972,800	2,100,000
学生会費	436,000	500,000
賛助会費	1,050,000	1,100,000
事務局収入	163,088	200,000
その他	469,573	200,000
繰越	155,642	148,818
計	4,247,103	4,248,818

支出の部

	1994 決算	1995 予算案
会誌編集印刷	1,180,381	1,250,000
学会センター	1,724,241	1,700,000
(うち郵送費)	(641,130)	(640,000)
春・秋学会費	77,612	120,000
旅費	0	0
事務局経費	516,051	700,000
その他	600,000	300,000
(借入金返済積立)		
繰越	148,818	178,818
計	4,247,103	4,248,818

若干の議論、質疑の後、第3期上記活動方針及び同期予算案について挙手による採決を行い、賛

成85(55)、反対0、保留4(2)(括弧内は委任状によるもの)で承認された。

3. その他

(1)秋期学会講演会

今後の学会開催予定に関して、今秋の学術講演会は1995年11月13日(月)14日(火)北海道大学学術交流会館で行うことになっている。また、1996年秋には九州大学で引き受ける用意がある旨、村江会員から発言があった。1997年秋は例えば広島大学で開催してはどうかと言う案が出された。

(2)神戸大震災について

前日の運営委員会において向井正委員より震災学生に対する援助として500万円を超す寄付がありそれに対するお礼が述べられた旨の報告があった。

◇日本惑星科学会第14回運営委員会議事録

開催日時：1995年3月28日(火) 17:00-19:05

開催場所：日本大学文理学部3号館 345号室

出席者：中澤・水谷・阿部・加藤・高木・土山・福岡・藤井・藤原・松井・向井・村江・山本・渡部(以上出席者)、武田・荒川・川口・佐々木・杉浦・寺沢・矢内(以上委任状)

I. 報告

①会員数の現況

中澤会長より3月15日現在の学会員数につき、委員会に先立ち書面により以下の通り報告があった。

正会員(除学生会員)	326名	(+29名)
同(学生会員)	129名	(+22名)
賛助会員	12団体	(±0)

なお、()内の数字は昨年3月からの増減を示す。

②シンポジウムの講演等について

中澤会長より昨秋より本年3月までに本会に対してシンポジウム後援等の依頼が下記の通りあり、会長判断で承諾した旨、報告があった。

1)シンポジウム「シューメーカーレビー第9彗星木星直撃」(後援)

主催：月・惑星協会

開催日：1995年2月4日

開催場所：科学技術館サイエンスホール

参加者：約350名

2)宇宙科学シンポジウム「21世紀の宇宙サイエンス—その新たなる飛躍にむけて」(共催)

主催：日本宇宙生物科学会、日本惑星科学会、生命の起源及び進化学会

開催日：1995年4月8日

開催場所：東京工業大学百年記念館

参加者：約100名

3) 第23回国際天文学連合 (IAU) 総会 (後援)

主 催：日本天文学会

開催日：1997年8月17日～30日

開催場所：国立京都国際開館

参加者：約500名

どまる限り、事務局設置に積極的に賛同する、との考えを伝えてきた。

今後、一年後をめどに、合同大会準備運営を支える事務局設置について連絡会等でつめていくこととなった。

4) 第33回 COSPAR (後援)

主 催：日本学術会議第4部宇宙空間研連

開催日：1998年夏を予定 (未定)

開催場所：名古屋市国際会議場を予定 (未定)

参加者：1000名～1500名程度

なお、シンポジウム後援依頼等に対して、その主旨・目的が本会の目的に合致しており、資金的な負担がない場合にはこれまで会長の判断で対応してきたこと、資金上の負担を伴うような場合には運営委員会に諮りたい旨会長より発言があった。

③ 合同大会参加学会会長懇談会

3月27日昼食時に、合同大会参加学会会長懇談会がもたれ、本会からは中澤会長、山本連絡会委員が出席した旨、中澤会長より報告があり、この懇談会での合同大会事務局設置に関する意見交換について以下の通り報告があった。

まず、今回の合同大会開催組織委員会側から発言があり、合同大会の企画運営には眼には見えない多大の苦勞があったこと、合同大会のための事務局が機能していればその苦勞のかなりの部分は回避できたことなど素直な感想が出された。この点に限れば、各学会とも事務局設置の必要性は認められたものの、合同大会については毎年確認しつつ参加している学会もあり、また合同大会事務局運営費の負担が個々の学会の財政状態に影響を与える可能性もあることから、一概に事務局設置に手を挙げて賛同しにくいとの意見もあった。本学会の基本的姿勢として、負担金が相応な枠内にと

④ その他

3月24日現在で約200件、528万円余りの神戸大震災義援金が寄せられた旨、また学生の住環境確保のための補助としてそれを利用したい旨、向井委員より報告並びに感謝の発言があった。

II. 議事

委員会成立を確認の上議事に入った

① 第3期役員および専門委員等の選出

中澤会長より、昨年12月の運営委員選挙結果を踏まえ、専門委員長の継続、交替等を勧告し、下記の方々に運営委員をお願いした旨報告があった。

なお、武田会員から副会長職を辞退したい旨中澤会長あてに連絡があったが、討議の結果、ぜひとも同氏に副会長をお引き受け願うこととした。また、各専門委員長人事については中澤会長より案が示され、原案通り了承した。

役員、運営委員の構成の確定をうけて、各専門委員会及び作業部会の委員選出について討議し、以下の通り第3期専門委員が選出された。

日本惑星科学会第3期役員一覧

(平成7年1月1日～平成8年12月31日)

	選出方法
会 長：中澤 清	選挙
副 会 長：水谷 仁	会長指名
武田 弘 (学術会議担当)	会長指名
監 事：中野武宣	信任選挙
松田准一	信任選挙

運営委員：向井 正	選挙①
山本哲生 (将来計画委)	選挙②
藤原 顕 (総務委)	選挙③
松井孝典 (対外協力委)	選挙④
高木靖彦	選挙⑤
佐々木晶 (企画部会)	選挙⑥
寺沢敏夫	選挙⑦
藤井直之	選挙⑧
林 正彦	選挙⑨
土山 明	選挙⑩
大谷栄治	選挙⑪
荒川政彦	選挙⑫
杉浦直治 (財務委)	会長指名
川口淳一郎	会長指名
福岡孝昭	会長指名
村江達士 (編集委)	会長指名
阿部 豊 (学会連合等部会)	会長指名
矢内桂三	会長指名
加藤 学	会長指名
渡部潤一	会長指名

総務専門委員会

委員長 藤原 顕	(宇宙研)
委員 福岡孝昭	(学習院大理)
中村昭子	(宇宙研)

編集専門委員会

委員長 村江達士	(九大理)
幹事 佐々木晶	(東大理)
委員 荒川政彦	(北大低温研)
井田 茂	(東工大理)
海老原充	(都立大理)
大谷栄治	(東北大理)
加藤 学	(名大理)
小林憲正	(横浜国大工)
佐々木進	(宇宙研)

高木靖彦	(東邦短大)
土山 明	(阪大理)
中川義次	(神戸大理)
早川雅彦	(宇宙研)
松島弘一	(航宇技研)
向井 正	(神戸大理)
坂本尚義	(東工大理)
渡部潤一	(天文台)

なお、委員長の補佐役として更に1名の九大関係者を加えることとした。

将来計画専門委員会

委員長 山本哲生	(北大理)
副委員長 香内 晃	(北大低温研)
委員 大谷栄治	(東北大理)
川口淳一郎	(宇宙研)
小島秀康	(極地研)
小林憲正	(横浜国大工)
関谷 実	(九大理)
土山 明	(阪大理)
留岡和重	(神戸大理)
林 正彦	(天文台)
渡邊誠一郎	(名大理)

なお、財務専門委員、企画部会委員については委員長(部会長)が欠席のため後日決めることとした。また対外協力専門委員についてはその役割・方針等を明確にした上で後日選出することにした。

②第2期下半期決算

財務専門委員会が作成した収支決算表(案)が提示され、杉浦財務専門委員会の依頼を受けた中澤会長より以下の通り若干のコメントがあった。事務局アルバイトの雇い上げをやめたことにより事務局経費は大幅に減少した。そのかわり発送等の事務、役員選挙等の事務処理のため学会事務

委託費が増大している。

また、編集専門委員会の努力により、学会誌の頁数が増加したにも拘らず、会誌の編集・印刷経費は横ばいの状況にある。これら増減の結果、第2期下期会計年度では新たに約60万円の繰り越し増（約75万円の累積繰り越し）となった。

以上の報告を受け、討議した結果、多額の繰越金があるのだから本会設立当初の借入金の返済にあててはどうか、との意見が出され、60万円を次年度返済することとして、同額を借入金返済のための積立金として次年度に繰り越すこととした。

[決算案]

収入の部		
	1994 予算	1994 決算
一般会費	1,700,000	1,972,800
学生会費	400,000	436,000
賛助会費	1,400,000	1,050,000
事務局収入	0	163,088
その他	245,000	469,573
繰越	155,642	155,642
	3,900,642	4,247,103

支出の部		
	1994 予算	1994 決算
会誌編集印刷	1,400,000	1,180,381
学会センター	950,000	1,724,241
(うち郵送費)	(450,000)	(641,130)
春・秋学会費	120,000	77,612
旅費	0	0
事務局経費	1,280,000	516,051
その他(借入金返済積立)	0	600,000
繰越	150,642	148,818
	3,900,642	4,247,103

③第3期上期予算

財務専門委員会では、今期の収入、支出はいずれも昨年度とほぼ同程度の規模と判断し、昨年度の決算を参考に今期の予算原案を作成したとの経緯が、杉浦財務専門委員長欠席のため、中澤会長から報告され、その予算原案が提示された。この案には借入金返済については考慮されていなかったが、上記②の議論を受けて、今期についても、借入金返済積立に30万円計上するとの修正を行い、以下の通り第3期上期の予算案を決定した。

[予算案]

収入の部		
	1994 決算	1995 予算案
一般会費	1,972,800	2,100,000
学生会費	436,000	500,000
賛助会費	1,050,000	1,100,000
事務局収入	163,088	200,000
その他	469,573	200,000
繰越	155,642	148,818
	4,247,103	4,248,818

支出の部		
	1994 決算	1995 予算案
会誌編集印刷	1,180,381	1,250,000
学会センター	1,724,241	1,700,000
(うち郵送費)	(641,130)	(640,000)
春・秋学会費	77,612	120,000
旅費	0	0
事務局経費	516,051	700,000
その他(借入金返済積立)	600,000	300,000
繰越	148,818	178,818
	4,247,103	4,248,818

なお、この予算案は学会誌の年間頁数が昨年度並であるとの仮定にたって組まれたものであるが、

学会誌の頁数は増大していく傾向にあること、また、そのこと自体は本学会にとって喜ばしいことを考慮し、収入増をはかる努力をする必要があるとの意見が出された。その具体的な方策として、例えば、各地の博物館、児童館などに学会誌の購読をすすめ、会誌購読会員費の増収をはかるとか、また、学会費滞納者に運営委員を通して直接納入を促し、それでも納入されない場合には除名することにより出費を抑えるなどが考えられる。

④第3期基本活動方針

今期の本会運営の基本的な方針について、中澤会長より以下の通り原案が示された。科研費細目の新設など惑星科学分野の研究環境、大学院教育環境の整備、研究拠点の構築などに学会として本格的に取り組むべき時期にきている。また、宇宙開発事業団の開発したHⅡロケットを利用した月・惑星探査も可能となりつつあり、本会が探査計画の立案、実行において主導的な役割を果たすことも求められている。これら諸点について、将来計画専門委員会、対外協力専門委員会で早急にかつ十分な検討をお願いしたい。

また、ここ1～2年の間地球惑星関連学会間で議論されてきた関連欧文誌の問題も積極的な方向で対応すべく関連する専門委員会、作業部会で検討したいと考えている。

財政的な目標としては、第3期の2年間に借入金返済を完了させることとしたい。そのため、収入規模を拡大するような具体的な対応策を考え、実行に移して行きたい。

上記の原案について若干の議論を行い、原案通り了承した。

⑤学術会議惑星科学研連の設置について

学術会議日食専門委員会山本哲生委員より、標記に関するこれまでの経緯、日食専門委員会にお

ける議論について、以下の通り報告があった。惑星科学研連の設置については、昨年6月開催の第15期学術会議総会において発議され、2年半後(第17期)から発足できるよう今期に関係研連(天文、地球物理、地質・鉱物など)で議論されることになっている。日食専門委員会でも既に議論が始まっていることから、これら研連、専門委員会などに本会から早急に働きかけを行う必要がある。

この報告を受け、議論した結果、学術会議担当の武田副会長から尾崎日食専門委員長、浅井地物研連委員長などに文書で協力要請していただくこととした。

⑥95秋季学会講演会開催について

今秋の学会講演会開催地は北海道大学と決まっていたが、山本委員から以下の日程で開催したい旨発言があり、了承された。

開催日：11月13日～14日

開催場所：北海道大学学術交流会館

なお、96年の秋季講演会は九州大学で開催する方向で検討いただくこととした。また、96年の秋季講演会開催の候補地として広島大学などが上がった。

学会講演会開催に関連して、秋期学会毎に一般の参加者を対象とした「一般公開シンポジウム」を開催してはどうかとの意見が出され、今後検討していくこととなった。

⑦第4回総会の運営

第4回総会の議長候補、書記候補としてそれぞれ、高木委員、阿部委員を選んだ。

◇電子メールニュースレターへの投稿について

電子メールニュースレターの発行は毎月15日前後に編集発行します。ニュースレターに記事を投稿したい方は毎月10日までに電子メールにより原稿を送付して下さい。宛先は、

JSPSNEWS@geo.titech.ac.jp

です。事務局でレイアウトを多少変更するするなど簡易編集はしますが、基本的には投稿原稿をそのままの形で掲載されることになります。

なお、電子メールとしての有効性を守るため、

記事はできるだけ簡潔なものにしていただくようお願いいたします。また、内容によって事務局の判断で掲載不可とさせていただく場合があります。あらかじめご承知おき下さい。また、これまでと同様電子メールニュースレターで流された記事は事務局の判断で学会誌「遊・星・人」に転載することがあります。

(東工大・榎森 啓元)

◇日本惑星科学会入会案内

「日本惑星科学会」は平成4年4月に発足しました。新学会の設立目的は、まず惑星科学それ自体の振興にあります。旧来分野の垣根を取り払い、相互理解や情報交換を積極的に進め、また、異なった手法、異なった対象の研究を集約し総合的な視点にたつて惑星科学を推進することが第一の目的です。また、本格的な惑星探査の時代を迎え、日本の惑星科学界全体として直接、間接に探査計画を支え、さらには将来の探査計画を立案すべく、新学会がその組織化をはかることも重要です。同時に、惑星科学研究の国際的な共同計画に日本の応分の負担と協力が求められている現在、新学会が力量を高め、国際的な窓口としての役割も果たすことになると思われます。更には、惑星科学の成果を社会に還元したり、また、中・高校生など若い人材を惑星科学に勧誘するための広報活動も新学会の重要な責務です。このような日本惑星科学会設立の主旨にご賛同くださり、今後の惑星科学の発展をともに担う広範な分野の方々の入会をお待ちしています。

入会の方法は下記の通りです。

年会費：

6,000円(但し、学生会員は4,000円)

入会手続：

(a)入会申込書(本誌巻末に綴込まれています)にご記入の上、事務局にご送付下さい。

(b)運営委員会において入会が認められますと、事務局より入会受理のお手紙を差し上げます。

(c)その後、(財)日本学会事務センターより年会費請求書が送付されます。請求書に従って年会費をお振り込み願います。なお、入会受理より年会費請求まで遅延があります(最大2ヶ月程度)が、会員としての権利は入会受理と共に発生します。

事務局：

〒152 東京都目黒区大岡山2-12-1

東京工業大学 理学部 地学内

TEL：03-3720-9885；FAX：03-3727-4662

〒113 東京都文京区本駒込5-16-9

(財)日本学会事務センター

TEL：03-5814-5801；FAX：03-5814-5820

◇学会誌購読申込み

本誌「遊・星・人」は会員外の方でも1号あたり1,750円(含送料)で購読することができます。購読希望の方は、本誌巻末の「学会誌購入申込カード」に所定の事項をご記入の上、事務局にお申し込み下さい。なお、バックナンバーについては創刊号から購読できますが、発行予定のものについては同年内発行のものまで(第1号より第4号まで)となっておりますのでご注意ください。

学会事務局が購読申込書を受け取り次第、請求書(他必要書類)、バックナンバー及び最新刊会誌を送付します。詳細は事務局までお問い合わせ下さい。